

議長（杉原豊喜君）

以上で、1番上田議員の質問を終了させていただきます。

次に、7番古川議員の質問を許可します。御登壇を求めます。7番古川議員

7番（古川盛義君）〔登壇〕

どうも皆さん、本日一番最後でございまして、お疲れのところでございます。ですが、短くまとめて質問をいたしまして、答弁は短くお願いしたいと思います。

耐震強度偽装問題が発生しまして、世間を騒がせたわけでございます。武雄ではそういう建物がなかったということで、一安心したわけでございます。阪神・淡路大震災の際、高速道路のピアが倒れ、大惨事が起こったと。道路公団は全国の高速道路を調査しまして、耐震強度が不足しておるところは全部補修するというのをやったわけでございます。つくるときより補強をする部分が金が余計かかったというようなことらしいです。

そこで、お尋ねをいたします。

市発注の公共工事におきまして、材料の強度試験 材料と申しますのは、鉄筋とかコンクリート、アスファルト、それはもろもろのものがございまして。その検査管理はどのようにしておられるのか、御説明をいただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

検査管理は、設計図書や仕様書、これに基づいて提出されます使用資材の届け、これで品質の確認をまずいたします。その後、材料が現場に納入された時点で、再度、公共建築標準仕様書、建築工事監督指示に基づいて確認をします。それから、佐賀県土木工事の施工管理基準等の国や県の基準によって検査を実施いたしております。

議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

7番（古川盛義君）〔登壇〕

例えばです。鉄筋の引っ張り検査とか、それからコンクリートの耐圧試験とか、アスファルトの成分抽出試験というのがあるわけでございますが、このような試験はどのようにして行っておられるのか。また、これをするのは納入業者がするのか、それとも、公共工事を落札した業者がするのか。また時期的に、いつやっておられるのか。着工前なのか、着工後なのか、また、完成後なのか、その点をお知らせください。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

まず、検査でございますけれども、これは試験基準に定めておりますものによつて、受注業者、それから材料の納入業者が試験を行つて、その試験結果の提出を求めて材料の強度、品質の確認をいたしております。

それから、試験の時期につきましては、工事着手前にするもの、それから、工事施工中にするもの、完成後にするもの、このように、それぞれその時点その時点で分けて行っております。県の建設技術センターに強度試験を依頼している部分もございまして、使用材料の強度並びに適正な品質管理の下に施工されていることを確認いたしております。

議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

7番（古川盛義君）〔登壇〕

品質管理確認は十分に行われておるといふことで一安心をしたわけでございますが、管理、納入業者選定並びに落札の業者なども、武雄市内の業者に最優先で選定をいただきますようお願いをいたしまして、次の質問に移ります。

今現在、集落営農組織をつくるように農水省の指示で行われております。これは、経理の一元化をやれということでございます。武雄市で集落営農の取り組み状況がどのようになっておるのか、また、集落営農組織の設立状況がどのようになっておるのか、お聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

集落営農の推進につきましては、現在、JA武雄営農事務所を中心に、支所ごとに集落営農組織づくり実践班を組織いたしまして、各集落に担当職員を配置し、組織の設立指導を行っております。

集落営農の組織状況でございますけれども、計画数54地区のうち、9月18日現在で32地区が設立をいたしております。

議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

7番（古川盛義君）〔登壇〕

品目横断的経営安定対策に伴う集落営農組織は、小規模農家や中山間地域の農家の切り捨てにもつながりかねないと、危惧をいたしております。このようなことを、どのようにお考えなのか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

品目横断的経営安定対策では、小規模農家を含めた5年から10年先の地域農業の経済的な維持発展を目指しまして、担い手を中心に地域農業の再編を図るため、集落営農の組織化が必要であると思っておりますので、御理解のほどお願いをいたしたいと思っております。

また、中山間地域等、大豆、麦の生産のない地域におきましては、品目横断政策のメリットが薄いということで、一部集落営農組織化への取り組みがおくれているところでございますが、低コスト化や担い手育成を実現し、将来にわたって集落の農地や農村環境を守る観点から、集落営農は必要であると思っております。中山間地域直接支払制度の組織充実とあわせまして、組織化の推進を図っていききたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

7番（古川盛義君）〔登壇〕

まだ設立をされていないところ、設立が済んだところ、農業者の方は不安を持っておられます。不安解消のために地域説明会や意見交換会などを開催していただき、何か今、農協主導で行われておるような感じがするわけでございます。それで、そういうことじゃなくて、行政でちゃんと説明をして、行政主導でやってほしいということをお願いいたしまして、次の質問に移ります。

武雄市のがばいばあちゃんではございませんが、武内にもがばいばあちゃんと言われるような人がたくさんおられまして、飛龍窯で野菜を土日ぐらいに売ってあるわけでございます。その飛龍窯、飛龍の里特産品部会のおばちゃんたちとJA婦人部のおばちゃんたちが協力をされまして、今年6月より武内保育園におきまして、地元産の野菜をということで納入をしていただいております。園児に、「このおばっちゃんのつくんさった野菜よ」と、「こいば食うぎ、元気になあよ」というようなことを保育園の先生から話をいただいて、楽しく食事をしておると聞いております。これが地産地消、食育ではなかろうかと。小さな小さなスタートではございますが、このようなことが武雄市で進んでいけばなと考えるわけでございます。

そこで、福祉保健部には公立・私立の保育園の給食の現状について、それから、教育委員会には小・中学校の給食の現状と、並びに市民病院に、病院食の現状についてお尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

保育園の地産地消の取り組み状況について報告いたします。

市内には保育園16園ございますが、地元生産者から何らかの方法で給食の食材を購入されている園は5園でございます。先ほど紹介いただきました武内保育園、それから、従来から取り組まれています山内保育園、大崎保育園、それから、本年6月から立野川内保育園、志久保育園が昨年10月から取り組まれております。

旧武雄市の私立、公立の保育園で構成する武雄保育部会では、今年度、県の食育補助事業を受けて、食材を生産者から直接購入により、子供たちに和食を取り入れた新たな献立づくりを研究されております。子供たちへの食育の重要性の中で、地元生産者と連携し、給食にできるだけ地元食材を使う取り組みは、今後進んでいくものと考えております。さらに推進をお願いしたいと考えております。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

本議会3枚目のパネル、（パネルを示す）小・中学校の青果物の利用ですが、ことしの4月から7月までの実績で申し上げます。

全部で24品目扱っておりますが、上の方に掲げておりますのは、その中のベスト5の部分です。下の方に円グラフをかいていますが、これはこれからまず言いますというと、武雄産、県内産の使用頻度をあらわしております。使用頻度といいますのは、4月から7月までの使用回数の中で武雄産の使用回数が何回あったかと、そういうふうな割合で出しております。それで、武雄産がここの黒い部分ですが、大体20%使っています。それから、県内産が27%、斜線の方ですね。それから、こっちの右側の白地の分が53%で、これが県外産と、そういうふうになります。

それから、上の方のベスト5ですけれど、ネギ、小ネギが5割、もやしが6割、タケノコが7割、チンゲンサイが7割、キュウリが8割と、そういうふうな状況になっております。特に県外産が多いのは、ジャガイモとかニンジン、ゴボウ、そういった野菜が多いようです。

教育委員会といたしましても、県内地元産の野菜をできるだけ多く使っていくように工夫をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

木寺市民病院事務長

木寺市民病院事務長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

病院の給食は委託をいたしておりますが、委託業者も大体金額ベースで8割を市内の業者さんから購入しているという状況にあります。近隣の市場から仕入れられておりますので、おおむね地元で生産されたものと思っておりますが、その追跡調査まではいたしておりません。

委託の業者に関しましては、できるだけ地元から仕入れをしていただくようお願いをしてまいりたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

7番（古川盛義君）〔登壇〕

学校給食とか、保育園の給食とか、病院とか使いますと、結局、量と質の問題が出てくると思います。しかし、なるべくならば地元産を使うと、辛抱して使っていただきたいと思えます。この点について、市長、どのようにお考えでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

地産地消については、私も市政の重要課題というふうに思っています。辛抱して使うという趣旨は、継続的に使っていくということと私は理解をしておりますので、そういった意味からでは同感であります。やっぱりどがん考えても、地産地消の方が栄養面、あるいは安全性、そしてやっぱり顔の見える農業生産者という観点から、悪かとはなかわけですね。ただ、コストがちょっと上がるとかというのはありますけれども、それも、こういった例えば給食とか、答弁があったように病院とかいろんなところで、それを一つのきっかけとして農業生産者の方々にも広げていただければありがたいというふうに思っております。いずれにしても、地産地消はしっかり腰を据えてやっていきたいというふうに思っています。

議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

7番（古川盛義君）〔登壇〕

どうか、地元産の野菜が地元で消費されますようお願いを申し上げます。

市長も毎日、テレビ、ラジオ、新聞の取材、出張などで多忙であると思えます。どうか健康に留意され、武雄市民のため、なお一層努力いただきますように期待をいたしております。

これで私の一般質問を終わります。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で7番古川議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 17時22分